

地域医療連携室だより

みゆき会病院 地域医療連携室 TEL023-672-8282 / FAX023-673-2561(直通) 第16号
2024年 1月発行

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
また日頃から、当院の運営に御理解・御協力を賜り感謝申し上げます。
今回は、病院長ご挨拶、回復期リハビリテーション病棟について、転院依頼の紹介件数報告、地域活動の開催・参加についての内容となっております。
今後とも、皆様からのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

病院長 安藤常浩



明けましておめでとうございます。2024年が始まりました。

年末年始はコロナによる行動制限がほぼ解除され、親戚、家族、友人等との久しぶりの再開に幸せな時間を過ごされた方も多かったのではと存じます。しかしながら、まさに元日の夕食の団欒の時に前に、能登半島を中心とする大地震が起きてしまいました。その後も続く余震や火災により多くの方が被災され、大切な御家族を失ったり、日常の平和な生活を奪われた方々に対して、まずは心よりお見舞い申し上げますとともに、困難な道のりと思われそうですが、1日でも早く通常の生活に戻れますことをお祈り申し上げます。さらには羽田空港での航空機事故も続きました。こちらは人災と考えられますが、改めて災害というものが時間も場所も選ばず、日常生活に突然襲いかかる恐ろしさを感じます。世界に目を向ければ、ウクライナやパレスチナでの戦争には終わりが見えず、社会情勢はなお不安定であります。また、温暖化に起因する山火事や水害などの自然災害も多発しています。国内においても、エネルギー資源の高騰や円安の影響による物価高騰、生活不安、政治不信なども含め先の見えない不確実な時代を迎えているとつくづく感じます。そんな時代を生きていく者として、我々は遭遇するであろう災害に対しての覚悟と準備の意識を少なからず持ち続けなければならないと考えます。病院においても、常に災害が起こる前提でその対応を検討し、地域の災害救護も含め準備を徹底したいと思います。

さて、各病院、医院の先生方、連携室や施設の担当の方々におかれましては、日頃より患者様のご紹介、入所のご案内、準備等で大変お世話になっております。当院では、今後とも整形外科疾患の手術治療及びリハビリテーション、呼吸器、感染症、循環器、消化器、糖尿病、神経、血液科など、専門性の高い内科診療と救急告示病院としての救急診療の充実、この三本を柱として、この地域に無くてはならない医療機関としての使命を全うする所存でございます。これからも、地域の皆様の健康寿命の延伸と地域包括ケアシステムの更なる充実を図り、この地域社会の発展に貢献したいと願っております。

今後とも皆様との医療連携を密にして、今年はこれまで以上にスピーディな対応を目標にしたいと思います。また、ご意見・ご要望などございましたら、何なりと御申し付けいただけますと幸いに存じます。今年もみゆき会病院地域医療連携室をどうぞよろしくお願い申し上げます。

みゆき会病院「回復期リハビリテーション病棟」について

回復期リハビリテーション病棟
師長 山賀洋美



みゆき会病院回復期リハビリ病棟は、脳卒中や大腿骨近位部骨折等により、様々な障害をもった方が可能な限りその機能を取り戻し、元の生活に戻れることを目指して日々の業務に取り組んでいます。また、障害が完全には回復せず日常生活の不自由さが残ってしまったとしても、サービスを活用し様々なサポートを受けることで、退院後の生活が安全で楽しく豊かなものとなるように、チーム一丸となって取り組んでいます。

急性期の治療が一段落して回復期に来たばかりの患者様は、自身の障害が受容できずに混乱していたり、悩んでいたりと強い不安を抱えていることがあります。中でも排泄が自分でうまく行えないことへの苦痛を表現する場面を多く見かけます。排泄は人間の尊厳にも関わる大切な生活行動であり、「自分でトイレに行けるようになりたい」との思いは強く、またご家族が「自立してほしい」と願っていることでもあります。実際、排泄が自立できるか否かが在宅復帰の鍵になることも多いため、病棟生活においても「見守ること」「待つこと」を心掛け、できる限り排泄の自立を目指した関わりを行っています。

また、回復期リハビリ病棟の大切な役割として、患者様やご家族が望む「その人らしい暮らし」とは、「どこで」「だれと」「どのように」生活することなのかを具体的に考え、イメージできるように関わることが求められます。一人ひとりの人生観を理解し、想いに寄り添い「こころ」と「やさしさ」をもって接することで患者様やご家族のみならず、地域に信頼され、喜ばれる病棟であり続けたいと願っています。

近年、回復期リハビリテーション病棟では短期間で大きなリハビリ効果を上げることや、重症度の高い患者様をより多く受け入れることが求められるようになりました。そのため、急性期治療を終えた患者様を速やかに回復期で受け入れるよう体制を整えています。ADLの改善を目的とした集中的なリハビリテーションが必要な患者様は、是非みゆき会病院へご紹介ください。

回復期リハビリテーション病棟における 作業療法士の取り組みについて

回復期リハ作業療法科
科長作業療法士 後藤圭子



「みゆき会病院回復期リハ病棟は住み慣れた地域でその人らしい生活を創造します」

この目標のもと、私たち作業療法士は患者様の心と体、日常生活のリハビリに取り組んでいます。

印象深いエピソードをご紹介します。当病棟から在宅復帰した患者様と数年後に偶然お会いした時「おめ（お前）から教えてもらったやり方で風呂さ今でも入ってる！」と満面の笑みで固く握手を交わされました。

その方は重度の左麻痺で今でも車いすの生活ですが、福祉用具を活用し自宅浴室の環境を工夫することで、【自宅でお風呂に入る】というご本人の目標を達成することが出来ました。私は「この方は本当に自宅のお風呂が好きなんだなぁ」と改めて感じるとともに、患者様ごとにある『価値ある作業（日常生活等）』に焦点を当て支援する大切さを再認識しました。

病気や怪我の発症後、それまでとは違う方法で生活を再構築しなければならない方もいらっしゃいます。そのような状況でも患者様が【できるようになりたい】ことに寄り添い、更にそこに隠された患者様の『役割意識』や『有効感』等に焦点を当てるのが作業療法士の役割だと思います。これからも患者様と共に悩み、共に「できた！」時の喜びを分かち合う取り組みを続けていきたいと思ひます。

日頃より患者様の転院のご紹介をいただき誠にありがとうございます。
 今年度 12 月までにご依頼をいただいた件数をご報告させていただきます。
 ご紹介いただいた患者様は、早期に院内で協議しスムーズにお受入ができるよう対応させていただきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

R5年度病院・施設別紹介患者数
 (地域医療連携室を通して紹介いただいた患者数)

病院・施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計紹介数
山形大学医学部付属病院	12	10	4	10	9	5	7	12	8	0	0	0	77
山形市立済生館	11	2	5	3	6	5	8	7	11	0	0	0	58
山形県立中央病院	1	2	3	1	0	0	3	2	1	0	0	0	13
山形済生病院	2	2	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	8
東北中央病院	1	0	3	0	0	2	2	3	3	0	0	0	14
篠田総合病院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
真室川病院	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
至誠堂総合病院	3	2	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	10
新庄病院	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
小白川至誠堂病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
山形徳洲会病院	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	4
福島総合病院	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
置賜総合病院	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3
吉岡病院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
矢吹病院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
米沢市立病院	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
舟山病院	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
北村山公立病院	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計紹介件数	32	19	20	21	16	15	22	29	26	0	0	0	200

多職種連携の会「なせばなる」の開催について

上山市に住む要援護者およびご家族を地域で支える各専門職が、よりよい連携や支援の質の向上を図ることを目的として、有志による研修会「なせばなる」を再開しました。コロナの影響で、約4年ぶりの開催となりましたが、過去最大の59名が参加しました。「医療と介護の連携について、あなたが思うこと」をテーマにグループごとに意見交換を行いました。今後もこの研修会を継続して、地域の皆さまによりよい支援を提供できるよう取り組んでいきたいと思ひます。



フードドライブの開催について

令和5年12月に第2回目のフードドライブを開催しました。院内職員から寄贈された食品を12月15日(金)にかみのやまこども食堂「かえる家」さんへお届けしました。「かえる家」さんは、上山市内の浄光寺さんが発足されたこども食堂です。次年度も活動を継続して参ります。



外来予約及び転院紹介について

○外来予約

医事課へ電話かFAXでご紹介ください。ご紹介いただいた患者様は、お待たせすることなく診療科へご案内いたします。

外来予約申込書は、当院ホームページよりダウンロードしていただけます。

TEL:023-672-8282 FAX:023-673-1523

<https://www.miyuki.or.jp/hp/institutions-hp/214>



○転院予約

急性期治療後のリハビリや療養目的等の患者様のご紹介は、地域医療連携室までご連絡ください。

転院依頼票は、当院ホームページよりダウンロードしていただけます。

TEL:023-672-8282 FAX:023-673-2561

<https://www.miyuki.or.jp/hp/institutions-hp/136>



地域医療連携室紹介

当院医療連携室は、ソーシャルワーカー5名、看護師2名、医事課職員1名の計7名で担当しております。外来予約、病病連携による転院相談・調整及び退院調整を主な業務としております。

外来受診のサポートや自宅・施設へ安心して退院していただけるよう
関係機関との連携を図っていきたいと考えております。
今後ともよろしくお願いいたします。

地域医療連携室スタッフ

医事課 川村こゆき

看護師 木村悦子 鑑水千恵子

医療ソーシャルワーカー 赤城教之、花澤辰之、高橋葉唯留
芦野世莉佳、長谷部久美

